

地歴最新資料

第 28 号

INDEX

- 特集①** 学習者目線の理解と定着にむけた協働学習
～ ICT の活用を視野に入れて…………… 2
成城学園中学校高等学校教諭 森下 浩行
- 特集②** 特別展「渋沢栄一と井原」の開催と地元資料…………… 7
岡山県井原市文化財センター研究員 首藤 ゆきえ
- 特集③** 身近な教材で学ぶ地理総合「生活文化の多様性と国際理解」の授業実践
— 「カップヌードル」の教材化と未来志向のアイデア創造— ……12
茨城県立日立第一高等学校教諭 川久保 典昭

▶ドイチェス・エック(ドイツ・コブレンツ) ライン川とその支流モーゼル川の合流点。「ドイチェス・エック」とは、「ドイツの角」という意味で、ドイツ騎士団によって名付けられたとされる。コブレンツの街は、古くから水運の要衝として栄えた。



第一学習社

学習者目線の理解と定着にむけた協働学習 ～ ICT の活用を視野に入れて

成城学園中学校高等学校教諭 森下 浩行

はじめに

私の勤務校は私立の中高一貫校（1 学年 7 クラス）で、成城学園初等学校から学年の約半数が内部進学してきます。また、系列の成城大学には毎年 6 割程度が内部推薦制度によって進学します。高校 2 年生から文理に分かれ、いわゆる文系コースはさらに 2 つに分かれ、それぞれ主に成城大学進学をめざすクラスと他大学受験をめざすクラスから成り立っています。歴史系科目のカリキュラムは、理系コースでは高校 2 年生で世界史 A が必修で、文系コースでは高校 2 年生で日本史 B と世界史 B が必修です。文系コースでは、高校 3 年生でも引き続き歴史系科目の履修が続き、日本史か世界史の選択必修となります。ここで私が取り上げる高校世界史の実践は、文系コースの世界史 B です。なお私は、高校生の世界史と中学生の社会科をまたがって担当しています。ここ数年は中学生の授業コマ数の方が多いことから、本稿で取り上げる事例は高校での取り組みに加えて、中学生むけの授業を高校世界史に応用することを想定したものも含まれています。

またコロナ禍の副産物として、一人 1 台配付している情報端末（本校は iPad）と Google クラウドの利用が進み（進めざるを得なかったとも言えますが）、以前はできなかったことが実現したり、新しい着想が得られたりしました。ただし、本校では一人 1 台の iPad が導入当初からフル活用されていたわけではありません。学園創立百周年にあたる 2017 年に中 1・高 1 への iPad の配付が開始され、年次進行で 2019 年に全生徒が iPad をもつことになりました。しかしその使用は、主に英語の e ラーニングのためのものに限られ、他の教科でもすぐに利用するという場面はほとんどありませんでした。しかし、一人 1 台端末が実現していたことで、コロナ禍による休校期間に一気に利用が促進されました。そして、対面授業が再開されてからも、せっかくオンライン授業で取り組んだ ICT を活用した授業方法を残し続けられないか、という思いがあり、現在では iPad が欠かせない日々を送っています。

以下では、生徒がごく基本的な歴史の授業内容を整理し、理解を深めるための、私と同僚の実践をお伝えします。授業者側の授業の組み立ての工夫や、生徒同士が対話を通じて協働的に進めるワークについて、オンライン・対面の両方の場面を想定し、情報端末も積極的に利用した事例を、次のように分類してご紹介します。

1. コロナ禍以前の高校世界史での実践
2. コロナ休校中の高校世界史での実践
3. コロナ休校明けから現在にいたる中学社会の実践を高校世界史に応用したプラン

1.（コロナ禍以前）年表作成グループワーク

中世の西ヨーロッパ史は、各国に分かれて歴史が進んでいく上に、登場する君主も増えて流れがつかみにくい、という生徒の声をよく耳にします。さらに同時代の君主・出来事をおさえる、といういわゆる「ヨコの世界史」が問われると、どうやら生徒のあいだでは混乱が始まるそうです。交戦国の君主同士であれば、セットで名前をインプットすることも比較的簡単ですが、さらにそれを空間軸と時間軸とも一致させて「メモリーに保存する」となると、生徒たちの「処理スピード」はぐんと落ちます。これは「世界史あるある」であり、「世界史の醍醐味」でもあります。

そのようなとき、情報の整理にうってつけなのが各国史年表です。各教材会社は、いかに見やすく、どれだけ頭に残りやすくするか知恵をしばって、单元ごとや巻末に年表を掲載しています。

しかしながら、私は、この年表をうまく使えない生徒が少なくないことに気づきました。年表は、学習初期には情報量が多かったり、眺めているだけでは同時代であることの印象が残りにくかったりするのです。つまり、情報のインプットだけでは理解も定着もうまく進まない場合があるのです。そうであるならば、年表を自分で作って情報をアウトプットさせてみようと考えつきました。個人で黙々と年表づくりをした経験のある読者もいらっしゃるでしょう。しかし、せっかくなら対話的・協働的な取り組みに応用できないかということで、国名・君主名ごとに担当を割り振り、少人数のグループワークをしてみました。以下に具体的に示します。

◆用意するもの（黒板にはりだす場合）

- ・ B4 や A3 サイズのコピー用紙
 - ・ 太めのマジック
（国の数だけ色の種類があると見やすいです）
 - ・ マグネットかマスキングテープ
- ※机上で作業させる場合
……カードサイズの紙や付箋、数種類の色ペン

◆ワークの手順

- ① 国名・君主名ごとに小グループに分かれる

- ② 割り当てられた君主の事績や出来事を書きだす
- ③ 同じ国の事柄をそれぞれ縦に発生順に並べてはりだす (タテの整理)
- ④ 別の国の事柄を見ながら、同じ時期のものは横軸が合うようにはりだす位置を調整する (ヨコの整理)
- ⑤ 完成した年表を全員で確認する (授業者がざっと説明してもよいし、国ごとに代表の生徒にタテの流れを説明させたり、ヨコのつながりについて気づいたことを自由に発言させたりしてもよいでしょう)
- ⑥ 授業の振り返りとして、「年表を見て気づいたこと」を一つ書いて提出する

◆記入のしかたの工夫

- ・1枚につき業績を一つ書く
- ・発生した年がはっきりしている出来事なら年号も書く
- ・見やすいように大きく書き、文節を意識して改行する
- ・授業で書いたノートや教科書の文言そのままでも OK

オンライン授業

このワークは、ICT 機器の画面上でも実施可能です。Google の Jamboard¹⁾ やロイロノートを使用して、付箋・カードをどんどんとはりつけていけば、同じことができます。Google スライドやスプレッドシートを、ファイルごと全員で共有し、共同編集していく方法だと、テキストボックスやセルの大きさも自由に変えられます。

ハイフレックス型 (対面とオンラインの併用) であれば、教室にいる生徒たちのグループと自宅にいる生徒たちのグループに分けてワークを行います。教室のテレビにオンラインの生徒たちの年表の作成過程を投影し、ビデオ会議システムで音声も聞こえるようにすれば、教室にいるような雰囲気が出せるのではないのでしょうか。

ヘンリ 2 世 1154 アンジュー伯と兼任で即位 1154 ブランタジネット朝始まる	
リチャード 1 世 1189 第 3 回十字軍に参加	フィリップ 2 世 1189 第 3 回十字軍に参加
ジョン王 フランスの領土の大半を喪失 1215 マグナ=カルタを承認	
ヘンリ 3 世 1265 シモン=ド=モンフォールの議会	ルイ 9 世 1229 アルビジョワ派を撲滅 1270 第 7 回十字軍に参加

▲図 1_ 完成した年表 (再現)

ワークの方法や完成した年表 (図 1) をご覧になった読者はお気づきのことと思います。これはブレインストーミングでよく使われる KJ 法をベースにしたワークです。す

でに学習が終わった内容の復習として、クラスメイトとわいわいとワークを行う様子を見ていてこちらも楽しくなります。上に下にと紙をずらしていると、年代の近さや開きを体感できます。一見シンプルで地味なワークですが、理解、定着にはこのくらいがちょうどよいのかもしれない。

2. (コロナ休校中) オンライン授業の工夫

2020 年度の 1 学期前半は、一斉休校措置がとられ、本校もオンライン授業にふみ切らざるを得ませんでした。ただし、ビデオ会議システムを利用したライブ授業は行わず、また、時間割通りに学習を進めるようにチェックをすることもなく、約 2 カ月間、課題の配信を中心としたオンライン授業を実施しました。端末の画面を長く見ることによる肉体的負担も懸念されましたし、われわれ教員のスキル・ノウハウ不足もあったことは否めません。そしてとにかく「学びを止めない」、という、当時はまだ実態のつかめていなかったウイルスに対する恐怖心に寄り添うことを脇においてしまうことへの違和感も、私にはありました。とはいえ、私は高校 3 年生の文系受験クラスの授業を担当していましたので、学習単元の消化が至上命題でした。学校として、ライブ授業の配信はしないという方針でしたので、教材として授業プリントと事前に用意した動画を配信する、という方法を私は選択しました。ここでは、オンライン授業にあたって再構成した授業プリントの構造と動画作成の際に気をつけたことについてご紹介します。

①授業プリント

後述しますが、動画をコンパクトにするために授業プリントの構造も、ボリュームを出しすぎないように、またきりがよくなるように、次のことに留意しました。これは、コロナ禍以前からも気をつけるようにしていたことです。

- ・1 単元につき最大で A3 サイズ 1 枚に収める
- ・「3 を基本とした項目だて」を意識する
- ・コーネルメソッド²⁾ をとりいれて、左右に余白を取る

余白 4 ~ 5cm	2 イギリスの自由主義改革 ① 自由を求める主張の高まり (1) ヨーロッパ社会を分ける 2 つの政治思想の潮流 (2) イギリスにおける自由主義の広がり (3) 工業化の進展がヨーロッパ社会にもたらした変化
	② イギリスの自由主義改革 (1) 改革の背景 (2) 内政面 (3) 対外面

▲図 2_ 授業プリントの構造

まず、紙面は必ず見開きで完結するように調整します。進度が気になるからといって詰め込みすぎないことです。片面で足りる単元もありますが、無理に次の単元を盛り込んだりはしません。

次に、動画が「はじめに・本編・おわりに」という3つの大枠で展開することにあわせ、プリントの本編にあたる部分の見出しも3つにとどめることを意識します。因果関係や流れがある部分は、大項目も、中項目も、小項目も3つまでとします(図2)。Aという背景や原因があり、Bという出来事がおこり、Cという結果や影響につながった、と説明できるように構成します。ただし、情報レベルが並列関係にある項目の列挙のときは3つにこだわられません。

そして、プリントを作成する際には、余白を残すことも大切です。情報を精選し、大項目から小項目までの階層構造を意識してプリントを作ろうとすると、書きたいことが収まらないことがあります。何を残して何を省くか、また省いたものはどのように生徒に伝えるか、これを補うのが、動画とそれに付属するスライドであり、対面授業なら板書だと私は考えています。したがって、それらを生徒が書くためのスペースは、プリントにしっかりと確保しておきます。生徒は、その余白を使って自分の理解のためのさまざまな「補助線」を書き残すことができます。これは、キーワードだったり、後で質問したいことだったりします。あるいは、本質にせまるような疑問もあるでしょう。これは、探究学習の「芽」かもしれません。

かつては、黒板いっぱいの板書を書き写すことで、内容をアタマに入れることができ、ある種の達成感も得られていたのかもしれませんが。しかし、次第に書き写すことに終始してしまう生徒が増えてきたことで、私は、そうした授業方法は役割を終えたと考えようになりました。プリントや授業者の話にどれだけ「ツッコミ」を入れられるか、それを余白に書き残せるかが自分の理解度や授業内容へのコミットメントをはかる尺度だと思ってほしい、と現在は生徒に伝えています。

②授業動画の作成

現在では、動画作成については多くの情報が手に入りますが、当時の私には、パワーポイントのスライドショーに音声を吹き込むという方法が精一杯でした。このようにして作成した動画は、YouTubeにアップロードして限定公開とし、Google クラウドを通じてURLを生徒に知らせる形をとりました。動画作成にあたって気にしたことは次の3つです。

- ・動画は長い演説よりも、短く・軽く。
- ・顔出しは冒頭と最後だけで行う。
- ・カメラ映りよりもマイクの性能と話し方を重視する

まず、動画1本をコンパクトにすることを心がけました。その分、短い動画を何本も作りました。それでも長いものは、15分程度になってしまったものもあります。次の自作動画のリスト(図3)をご覧ください。今ならもう少し時間配分を上手にできる気がします。

- ・02 イギリスの自由主義改革—はじめに (1'44)
- ・02 イギリスの自由主義改革—1 (7'01)
(自由を求める主張の高まり)
- ・02 イギリスの自由主義改革—2 (3'00)
(イギリスの自由主義改革—背景)
- ・02 イギリスの自由主義改革—3 (15'33)
(イギリスの自由主義—内政と外交)
- ・02 イギリスの自由主義改革—まとめ (10'26)

▲図3 動画のリスト

動画での顔出し効果は、当初より多くの人が指摘していました。教室で行われている対面授業では、一人ひとりの生徒と目線を合わせるように視線を動かすことで、目が合った生徒は「自分にむかって話してくれている」と感じ、授業へのコミットメントが向上するといわれています。動画で授業者の顔が出ていると、同様の効果が期待できるというわけです。たしかに、ライブ配信などでは顔出しの時間が長い方がよいでしょう。しかし、事前に作成する場合は、動画1本を短く、軽くするために、顔出しは動画の最初と最後だけでもよいように思います。アナウンサーやタレントのようなカメラ目線はけっこう気恥ずかしくもあるので、登場する時間は短くてもよいでしょう。どうせ顔出しするのなら、クリアに映りたいというのであれば、パソコン内蔵のカメラからウェブカメラやビデオカメラに変えてもよいですし、グリーンバックを用意してCGっぽく画面に登場する、という手法もあります。このような方法がお好きな人には、ぜひ活用をおすすめします。そのようにして、わが家にはガジェットが増えていきました。

しかし、映りをよくするよりも大切なことが、音の性能です。ラジオを想像してください。映像がないのにもかかわらず、音声だけで実にリアルに情報を伝えてくれます。よりクオリティの高い音声を収録したいのであれば、ヘッドセットやワイヤレスのイヤホンマイクは必須アイテムです。ウェブカメラについているマイクも、パソコン内蔵のマイクよりは期待できます。パソコンの前から離れないのであれば、単一指向性のコンデンサーマイクがベストです。またガジェットが増えました。

問題はここからです。いくら道具をそろえたところで話をするのは自分です。目の前の生徒に授業するように話すことがこんなにも難しいものだとは思いませんでした。渾身の力を込めて作成した動画を見て愕然とした方は、きっと私だけではないでしょう。自分でも情けなくなるくらいに酷い話し方を改善する機会を得たのは、休校明けのことでした。同じような悩みをかかえる人が多かったのでしょう。知人の紹介で参加した「ラジオパーソナリティから学ぶオンライン時代の話し方」というワークショップでは、講師のフリーナレーター須賀千奈美さんから、話し手が心に留める7カ条(と聞き手にはどう聞こえるか)を教えてくださいました。

1. あかるく
 - ・聴いていると気分が明るくなり、元気になる気がする
 - ・その人の明るい表情が伝わってくる
2. しっかりと
 - ・一つひとつの言葉がしっかりと聞こえてくる
 - ・声の大きさが適切で、耳ざわりがよい
3. わかりやすく
 - ・結論として何を伝えたいかがわかる
 - ・話の流れがわかりやすい
4. 惹きつけて
 - ・飽きずに聞くことができる
 - ・間のとり方がうまい／違和感がない
5. 記憶に残すように
 - ・いくつかの言葉が記憶に残っている
 - ・心に響くものがある
6. 自分らしく
 - ・その人の気持ちや想いが伝わってくる
 - ・話し方にその人らしさを感じられる
7. 聞き手のために
 - ・聞き手の気持ちをうまくつかんでいるような気がする
 - ・聞き終わった後に、気づきや発見がある

どれもこれも、話すことを仕事としている私たちには当たり前のことかもしれません。しかしキャリアを積むうちに、おざなりになっていたかもしれないと反省をしました。このワークショップには、主に企業向けにセミナーを行っている現役講師やキャリアカウンセラー、声優志望の学生なども参加されていました。2カ月・全8回にわたって、目の前にいない人に伝えるスキルを磨いた経験は大きな財産です。

3. (学校再開後) 中学社会から高校世界史への応用

コロナ休校にともなうオンライン授業は、あらためて授業のあり方を考える機会を与えてくれたと思います。この経験から、今も学習内容を理解、定着させるための新しい方法を模索する日々が続いています。ここでは、中学生を相手に実戦投入をしたものをご紹介します、高校世界史に応用できるかをぜひ読者の皆様と考えたいと思います。

①ビジュアルメモ (Visual Memo) の活用

学校での学びに際しては、一般的には文字の読み書きによって情報を理解、定着させることが前提になっていますが、それらが苦手な生徒も一定数存在します。しかし読み書きは苦手でも、絵なら取り組みやすいという生徒もいるでしょう。ガードナーの多重知能理論³⁾によると、言語的知能の他に空間的知能というものがあります。これは、物事を視覚的に理解や想像、表現する能力です。また、知人の紹介で参加したビジュアルメモ講座⁴⁾は、話の内容を言葉だけでなくイラストを使って視覚的に表現するというものでしたが、ここからは、言葉を最小限にとどめ、メッセージを絵で表現することで、効果的に印象づけることができ

る、という知見を得ました(図4)。授業でこれらを紹介すると、絵が得意な生徒はさっそく授業プリントにビジュアルメモを作っていました。

ビジュアルメモは、協働学習に展開することもできます。ストーリーのある単元で、ある出来事を4コマ漫画風にビジュアルメモで表現します。4人グループで1人1枚のビジュアルメモを作り、統合すれば完成です。各グループがどのように表現したかをギャラリーウォークで共有するとよいでしょう。

オンライン授業に対応させるのも簡単です。作成したビジュアルメモをカメラの前で見せるか、スマホやタブレットなど写真に撮って共有するか、データを送信するだけで済みます。Jamboard や Google スライドで共同編集すればアクティブ・ラーニングにもなります。



▲図4_ ビジュアルメモ (湾岸戦争)

②振り返り (リフレクション) の活用

私は、授業の終わりに、なるべく短時間で終わる復習をさせています。具体的には、主に Google Forms を使用して、問題づくりをさせています(図5)。正誤問題、穴埋め問題など定期考査や入試でよく目にするものです。複雑な問題を作るには要約力が必要ですし、授業プリントの一部を丸写しするにせよ、一通り目を通すでしょうから、復習には十分でしょう。

提出された問題は、スプレッドシートに書きだして、クラス全員に閲覧権限を与えて共有します。テストが近づくころに、先生がお手製の問一問一答を配布するのもよいですが、生徒に学びを自分ごと化させる一つの方法に、これはないでしょうか。

③マンドラマップの作成

米大リーグのロサンゼルス・エンゼルス所属の大谷翔平選手が、プロになる前から取り組んでいたことで世に広まったマンドラマップも、学習内容の整理、定着に役立ちます。これは、9つあるマスの真ん中に中心的概念や用語を書き、周りの8マスに関連事項で埋めるというものです。各自作業にもグループ学習にも使えます。Jamboard の背景に9マスの枠を設定すれば、オンライン授業でも対面授

桐_ふりかえり_No.30

*必須

出席番号・氏名（選択）*

選択

正誤（○×）問題を作ってみよう*

回答を入力

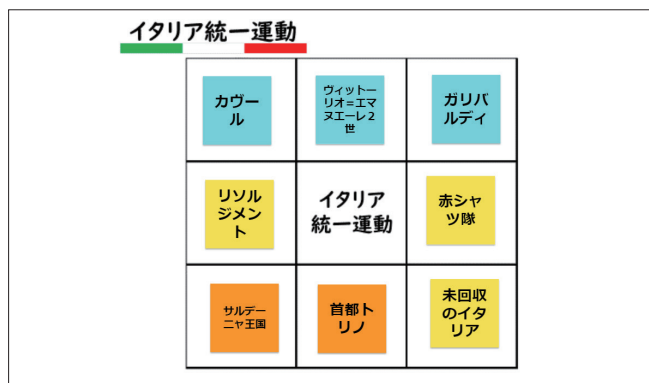
正解は？*

選択

【正解が×の場合】解説をつけましょう

回答を入力

▲図5 リフレクション



▲図6 イタリア統一運動のマンダラマップ

業でも、付箋をはってマンダラマップを完成させることができます（図6）。ここからマインドマップに発展させるのもよいでしょう。

④ 5ヒントクイズ

連想ゲームのように人物や出来事の名称を見て、その説明を5つまで用意してクイズを作るのもよいでしょう（「5ヒントクイズ」）。A4やB5用紙を半分にした紙を用意し、片面に人物名や出来事の名称、もう片面に関連する事柄を書きます。基本情報として、どこ（国名）、いつ（在位・在職期間、発生年）を書き、出来事の背景や原因、契機となる出来事、他の登場人物、結果や影響、意義などを追加していきます。マンダラマップから5ヒントクイズに進んだり、またはその逆をさせたりしてもよいでしょう。

また、5ヒントクイズは、情報端末をつかった変形バージョンも考えられます。ヒントを1つずつスライドに書き、5枚のスライドを順々に見せていき、分かったところで挙手・回答をさせることもできます。正解は6枚目のスライドに用意しておきます。



▲図7 5ヒントクイズ (変形バージョン)

おわりに

コロナ前、コロナ休校中、学校再開後という3つの時期に分けて、生徒が学習内容を理解、定着する助けになる方法をご紹介します。これらは、歴史学や歴史研究の方法にもとづいた深い学びの実践例ではありません。世界史の基礎・基本を、無味乾燥な反復練習ではなく、アタマ以外の五感を活用して生徒が体で感じながら身につけていく、というものです。授業者が教材や授業方法の見せ方・映り方を少し気にするだけで、学習者の取り組みは変わってきます。それはオンライン授業であっても対面授業であっても同じです。対面でできることはオンラインでもできるし、オンラインでできたことが対面でも同じようにできます。今や、情報端末＝オンライン学習に必要なもの、というレッテルをはり換える時期が迫っています。GIGAスクール構想の一環で、高校にもICT機器の導入がどんどん進んでいます。本稿でお伝えした私の普段の情報端末の使い方が、多くの読者の皆様にとってヒントになってほしいと願っております。

注

- 1) Google が提供するウェブ上のホワイトボードと考えてください。デジタル入力した付箋をはりつけて自由に移動させたり、付箋同士を線でつないだり、複数の付箋を囲ってグルーピングしたりすることができます。またリアルタイムで作業ができ、様子を見ることができます。データはクラウド上に保管されるので、指定されたURLを入力すれば、どの端末を利用しても閲覧・編集が可能です。
- 2) 1989年、米国のコーネル大学の学生のために開発されたノート術で、その利便性から各種方面で話題となりました。詳しくはStudy Hacker社のウェブサイト「アメリカの名門大学発！コーネル式ノート術をやってみたら驚くほど勉強が捗った話。」(2017.12.18公開)
<https://studyhacker.net/columns/cornellnotebook-method>
- 3) ハワード・ガードナー Howard Gardner (1943-) が "Frames of Mind: The Theory of Multiple Intelligences" (New York: Basic Books, 1983) で提唱。「すべての人間には8つの能力(論理・数学、言語、音楽、空間、博物、身体・運動、対人、内省)が備わっている。それらは使っていないようでも必ずある」とされるもの。詳しくはハワード・ガードナー著・松村暢隆訳『MI：個性を生かす多重知能の理論』(新曜社, 2001)、有賀三夏『自分の強みを見つけよう』(ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス出版部, 2018)。
- 4) アート・アンド・ロジック株式会社が提供する講座。講師を佐藤薫氏、ファシリティーターを増村岳史氏が務める1日講座で、ワークをみっちり行うことで、絵心とは無縁な人生を送ってきた私もビジュアルメモを作ることができるようになりました。詳しくはアート・アンド・ロジックのウェブサイト(https://artandlogicseminar.com/v_memo/)を参照。

1. はじめに

渋沢栄一は2021年のNHK大河ドラマ「青天を衝け」の主人公であり、2024年から発行される新一万円札の肖像にも決定している。大河ドラマにあわせてのイベントや企画展示は全国各地で催されただろうが、岡山県井原市も大河ドラマ「青天を衝け」渋沢栄一ゆかりの地PR活動実行委員会を2019年度に立ち上げた。ドラマ放映期間中は、第三セクター井原鉄道が「青天を衝け」ラッピング列車を運行したり、地元の団体主催で講演会が複数回開催されたりと、栄一にかかわる事業・行事が盛んに催されている。

その一環として井原市教育委員会では、「渋沢栄一と井原 ～栄達の道（サクセスストーリー）は井原から～」と題して、2021年7月1日より2022年1月30日まで井原市文化財センター特別展を開催した。コロナウイルス感染拡大の、いわゆる第4波、第5波のために、開始時期の延期や途中での臨時休館を余儀なくされたが、開館中は好評をいただいた。



▲写真 建物正面に立てられた看板
画像提供：井原市文化財センター（以下同）



▲写真 特別展入口のアーチ

岡山県井原市文化財センター研究員 首藤 ゆきえ

以下では井原市と渋沢栄一のゆかり及び展示資料を紹介したい。さらに展示していない地元資料を1点紹介する。なお紹介するエピソードは、注記しない限り半生の自伝である『雨夜譚 渋沢栄一自伝（抄）』¹⁾と、公益財団法人渋沢栄一記念財団ホームページのデジタル版『渋沢栄一伝記資料』による。

2. 井原市と渋沢栄一のゆかり

渋沢栄一が壮年期に活躍した東京や、生まれ故郷の埼玉県から離れた岡山県内での企画展示を不思議に思われる方もあるかもしれないが、栄一と井原には2つの大きなゆかりがあった。1つは、井原市西江原町に3万3500石余りの備中一橋領の陣屋（江原陣屋）が置かれていたことにかかわっており²⁾、栄一が一橋家家臣として当主の一橋慶喜に認められた最初の大きな功績が、西国領地での農兵募集と産業奨励にあったことによる。1865（慶応元）年、25歳の栄一は、慶喜に西国の一橋領（播磨・摂津・和泉・備中の4国内）からの農兵募集を建策し、「歩兵取立御用掛」という役が与えられ、まず備中国でこれに取り組んだ。

到着してすぐの3月当初は、密かに代官が妨害していたこともあり農兵は集まらなかったといわれる。そこで栄一は、一橋領の郷校である興讓館の館長阪谷朗廬と面会し、意気投合した。また剣術師範と試合をして勝利するなどして、人々の注目を集めた。すると朗廬の塾生から応募者が出るなどして多くの志願者を得、上方の3国も合わせ450人余りの農兵を連れ帰り、慶喜から白銀5枚と時服一重ねを頂戴し、お褒めの言葉を賜った。

さらに栄一は一橋領を巡回する中で産業奨励構想を練っており、同じ1865年中に「勘定組頭並」として幾度も領地を巡回した。備中国では、火薬の材料となる硝石の製造に取り組んでおり、少なくとも6月、9月に備中一橋領を訪れている³⁾。このような経緯は大河ドラマ「青天を衝け」でも取り上げられた。興讓館で塾生が暗誦するシーンや鯛料理の宴会シーンといったエピソードが再現された。

渋沢栄一と井原のゆかりの2点目は、栄一と千代の次女琴子と、興讓館で語り合った阪谷朗廬館長の4男芳郎が、1888（明治21）年に結婚したことである。芳郎は東京帝国大学卒業後に大蔵省へ出仕した官僚であった。後に大蔵大臣、東京市長へ就任しており、義兄の穂積陳重とともに栄一のプレーンであった⁴⁾。

阪谷芳郎は岳父栄一を尊敬するとともに、実父阪谷朗廬が初代館長であった興讓館の運営を常に気にかけていた。この芳郎が仲介者となり、興讓館と栄一の縁は明治時代以

降もつながっていた。

このような経緯から展示資料は過半が学校法人興譲館の所蔵である。その他は個人所蔵と井原市教育委員会所蔵である。これまで2度、渋沢栄一関連の企画展を開催したが、この度の特別展では市内に残る資料で展示を構成した⁵⁾。この特別展が、市民、子供たちに郷土の歴史に興味をもってもらう一つのきっかけとなることを期待している。

さらに県民や遠方の歴史好きの方に、井原市と栄一のゆかりを知ってもらい、井原市を訪れてもらうことを期待している。多くの方の目に留まるよう、JR西日本や井原鉄道の駅へのポスター掲示や市内外へのポスター・チラシの配布を進め、インターネット上での特設サイト開設や、Instagram・ツイッターを利用した情報発信を行った。ラジオ番組にも取り上げられた。コロナ禍で開館期間が大幅に削られたが、大河ドラマファンの方々が途切れず来館してくださった。

3. 特別展の主な展示資料

以下では展示資料のうち7点を紹介する。①以外は紙の資料であるため、劣化防止のため3期に区分した展示期間のいずれかで展示するとどめた。以下での古文書の引用はおおむね読み下し文に直した。

資料① 渋沢栄一揮毫の「興譲館」扁額

【壬子(1912)年6月】



学校法人興譲館には、1853(嘉永6)年の郷校開校当時に建てられた講堂と後に建てられた正門に、「興譲館」と書した扁額がそれぞれ掛けられている。特別展では講堂にかかる1枚を借用展示した。この扁額の揮毫は渋沢栄一である。署名の横に「渋沢栄一」「青淵^{せいえん}」、右肩に「人間貴晩晴」の落款が彫り込まれる。

興譲館は1908(明治41)年に私立中学校の認定を受けており、1912年は生徒数がいよいよ増加し始めた時期である⁶⁾。地方の中等教育機関として発展する興譲館中学校にふさわしい看板となった。

資料② やましたまささち 山下政吉館長あて阪谷芳郎書簡

【(1912年)5月27日】



阪谷朗廬33回忌及び興譲館創立60周年記念事業の一環として、朗廬が最初に私塾を開いた桜溪塾跡^{おうけいじゅく}(井原市芳井町築瀬^{やなせ})へ顕彰碑「朗廬阪谷先生垂帷跡」碑が建立された。1913(大正2)年11月に除幕式が執行された。この顕彰碑の表面の題字と裏面の事績も栄一の揮毫である。

旧来より「興譲館」扁額と顕彰碑の作成時期が近いことはわかっていたが、扁額の揮毫が依頼された経過は不明であった。しかしこの書状に、扁額と顕彰碑が並んで描かれていたことから、双方を同時に依頼したことが明らかになった。依頼を働きかけた中心人物は当時東京市長の阪谷芳郎で、山下政吉館長ら地元の人々と連絡をとり進めていた。文面では、渋沢の署名を入れるか、入れるならば名前か号かを尋ねている。結局「渋沢栄一書」で統一された。

資料③ 徳川慶喜書軸装 紙本

【年月日未詳】



扁額や掛軸は人目を引きつける資料であり、じっくり鑑賞すると書き手の人格を彷彿とさせる魅力がある。展示した慶喜の書は、少ない文字数ながら迫力がある。「博く民に施し、能く衆を済う」という論語の一節で、「民衆に恩恵を与え、困難から救いなさい」という為政者の心得を示している。「博施濟衆」の四字熟語として知られている。1933(昭和8)年に渋沢家から阪谷芳郎へ贈られ、芳郎か

ら興讓館へ寄贈されたといわれる。

この軸装は特別展では第1期に展示し、以後は栄一書の額装に入れ替えた。この他に阪谷朗廬愛用の落款、朗廬の書（レプリカ）、朗廬が一橋慶喜（後の徳川慶喜）から拝領したといわれる佩刀1振、江原陣屋の瓦、木札、一橋領で発行された銀札を展示した。

次に渋沢栄一來訪の記録である古文書を2点紹介する。

資料④ 渋沢篤太夫廻村につき廻状写

【1865(慶応元)年3月6日】

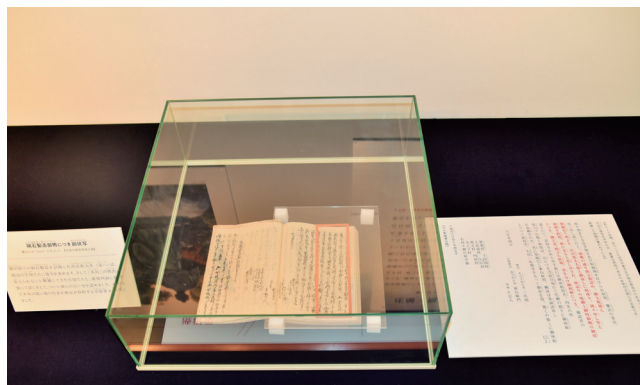


江原陣屋から村々へ出された廻状を庄屋が書き写していた横帳「[廻状写帳]」から、当時は篤太夫を名乗っていた栄一が到着する直前の3月6日の一部を展示した。崩し字で書かれており読みにくいので、横へ読み下し文を置いた。

ここには、3月8日に栄一（篤太夫）が到着予定のこと、目的は一橋家の兵備拡充のための農兵募集であること、栄一が廻村するので庄屋達は希望者集めに尽力するように、などと書かれている。『雨夜譚』によると、代官が密かに農兵募集を妨害し、庄屋達に栄一の呼びかけに応じない様に命じたとある。しかし古文書には、一橋家中で軍制改革が喫緊の課題となり歩兵隊の充実が急務であることなど、簡潔に必要な事項を伝えている。裏で妨害していたとしても、表面的に代官は滞りなく廻達しているし、その後、村単位で人数を割り当てる廻状も出している。真相はどうだったのだろうと想像がふくらむ資料である。なお備中国からは4月5日、農兵151人が京へ出発した。

資料⑤ 硝石製造御用につき廻状写

【1865(慶応元)年6月24日】



この古文書は、栄一が6月に硝石製造のために訪れた際の記録である。惣代庄屋が、同じ組の庄屋へ送った廻状写で、縦帳「諸願届書控」の一部を開示した。農兵募集に成功した栄一は、備中国では火薬の材料となる硝石製造に取り組もうとした。6月22日に西江原村の陣屋へ到着すると、庄屋達を招へいし硝石製造の計画を伝えた。開示部分には、計画を聞かされた惣代庄屋が材料となる木灰の供出に難を示し、直接栄一へ訴えることとなり熟談した様子が述べられている。

栄一と惣代庄屋の対面は、「種々申し答へ相歎き候ところ、終に尤と思し召され、しかし詰まりの処、御上御時節柄の御用に付き、御主意相立ち候様、事を分け御理解につき」となった。現代文にすると「篤太夫様へ説明し、質問に答え、木灰の供出は出来ないとお願ひしたところ、ついに篤太夫様が“そちらの陳べることはもっともである”と認めてくださった。しかし、御上（慶喜）が（禁裏御守衛総督などを務める）御用にあたって、（軍事改革を進めるといふ）御希望がかなうようにしなければならないから、順を追って物事を話し合い双方が納得した」といった内容に読める。結果として、他所から木灰を購入して、その代金を村々が負担することで折り合った。

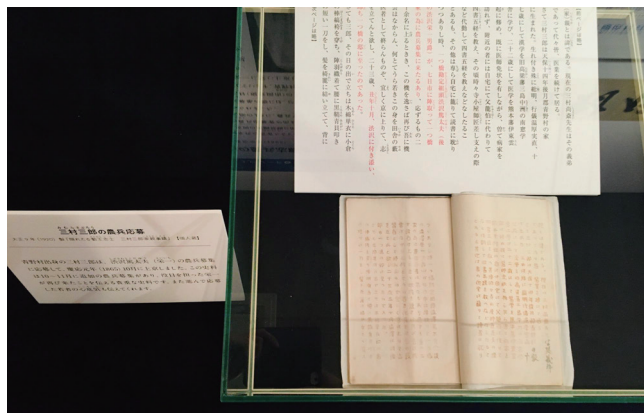
『雨夜譚』で栄一は、硝石製造はあまりうまくいかなかったと述べているが、その一端は原料集めの困難さにあったのだろう。しかし、相手の言い分をいったん認める栄一の懐の深さが読み取れるし、妥協点を探った様子からは優れた交渉力もうかがえる。

④や⑤のような古文書は地味であり、崩し字が読みづらい。しかし、先進的な計画を進めた意気込みや、緊迫した雰囲気伝わってくる内容である。

加えて、硝石製造のために村々を巡回する中で領民と親しくなり、秋には領民に招待されて天神峽（現井原市芳井町）の紅葉を鑑賞したとか、食事の給仕をした児童を抱き上げてあやしたとか、領民と親しく触れあったエピソードが残っている。この他に展示した古文書は明治、大正時代に栄一や娘婿阪谷芳郎が、興讓館中学校館長の山下政吉にあてた書簡である。

次に、農兵に応募した者にかかわる資料を2点紹介する。農兵募集の一件は栄一だけでなく、若者達の運命にも大きな影響を与えた。2点は明治、大正時代に作成された印刷物である。

資料⑥ 『隠れたる勤王志士 三村三郎家親事績』
【1920(大正9)年製】



京で歩兵として訓練を重ねていたが、大政奉還の頃に京を離れ行方不明となった青野村(現井原市青野町)出身の三村三郎の事績である。義弟で医者である三村尚斎が、兄の行方を探し続けて最期を迎えたのが山口県であることを突き止めた後、事績をまとめた。三郎は、密かに長州藩へ赴き、藩士に疑われ投獄され、1868(明治元)年に病死した。勤王思想に転じ奇兵隊へ入ろうとしたといわれている。

1865(慶応元)年10月頃、三村三郎は栄一が農兵の追加募集に来ていることを知り応募した。当時医術の勉強を終え郷里に戻ったが、家に籠りがちであった当時の心情は、「この機を逸さば再び吾に機会はなからん、(中略)宜しく京に上りて志を立てん」と述べられている。幕末の動乱の中で自分の進む道を探す若者にとって、農兵応募や上京は魅力的であったようだ。

資料⑦ 柏木交一と渋沢栄一の往復書簡
【1925(大正14)年】



農兵に応募し明治時代に教師となった西江原村の柏木交一が、農兵応募から60年近く隔てた1925年に渋沢栄一と交わした書簡類である。まず柏木から栄一へ書簡を出し、栄一がこれに返信、柏木が感激して再信しており計3通に及ぶ。この3通は渋沢栄一の理念に共鳴した人々の結社である龍門社が刊行する『龍門雑誌』で紹介され、次いで興

譲館が刊行する『興譲会報』へ掲載された。

1通目には、「この度、貴殿の御編さんの『徳川慶喜公伝』を一読し、「慶喜公が公明正大に、^{じゅんぎやく}順逆の理に迷わず、幕末の難局を切り盛りしたことに、^{まんこう}満腔の敬意を表すると同時に、伏見の戦争に従事した私が、貴殿が心血を注いで編さんした伝記を一読して、溜飲が下がる思いです(現代語訳……首藤、以下同)」と書かれている。鳥羽伏見の戦いで慶喜軍として薩長軍と戦った柏木は、伝記発刊により慶喜の名誉が挽回されたと感激して、思い切って栄一へ書簡を出したのである。3通目には、「伏見の戦いでは銃身に敵の銃弾を受けたため退かなくてはならなかった、闘いの話しを常々人にしているが、『アノ朝敵軍の方でしたか』と言われてしまい残念である、年をとってから殊更腹が立つ」と書かれている。

柏木の書簡をみると、幕府軍としての実戦が後の心情に大きな影響を与えたことがわかる。慶喜への忠節心や旧幕臣に対する同情を常に抱えていたのではないだろうか。農兵体験がその後の人生観を大きく限定する出来事になっている。

以上、展示資料について幾つか紹介してきた。総じていえば、井原市文化財センター特別展「渋沢栄一と井原」の展示内容は、生涯にわたる偉業と比べれば小さなエピソードの積み重ねである。しかし、人並みすぐれた胆力や行動力や才覚、領民に優しく接した様子がうかがえる。

4. 展示しなかった資料

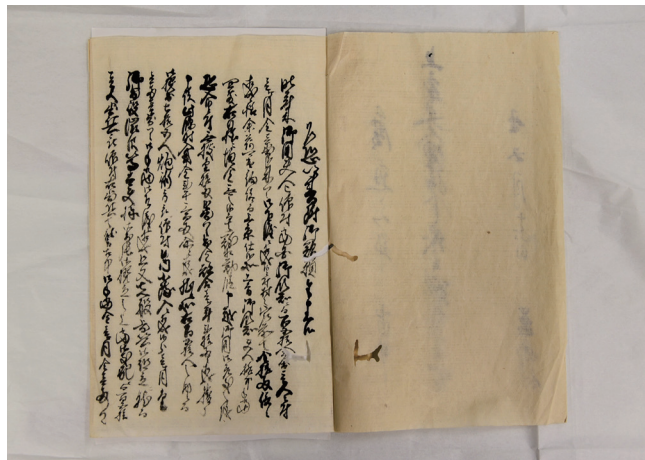
農兵募集はそもそも、当時の一橋家の軍制改革の一環であった。現在の井原市に残る古文書をさらに読み込めば、一連の改革の中に備中領での農兵募集を位置付けて考察することができる。栄一と直接関わらないため特別展では展示しなかったが、農兵の前年に徴発された「夫人」にかかわる古文書を紹介する。

1865(慶応元)年4月に農兵を引率して京へ上った庄屋達に、前年に徴発された「夫人」たちが生活難を訴えた。一部は淀辺りまで付いてきて、増給がないなら連れ帰って欲しいと述べた⁷⁾。この「夫人」とはどのような存在だったのだろう。実は、1864(元治元)年3月に慶喜の「禁裏守衛総督」「摂海防禦指揮」就任を理由として、備中一橋領では「夫人」が集められた。5月に100石につき1人の割合で差し出しが命じられ、8月に150人が京へ出向いた⁸⁾。

一橋家の軍事力の変遷過程を研究した加藤弘之氏によると、元治元年段階における一橋家固有の軍事力は「皆無」に近かった⁹⁾。ただし、1863(文久3)年9月に関東で徴発され、慶喜上京に従ったと思われる「軍立夫人」があり、「番所警護の補助や砲術訓練など多様な職務に従事」した。1865(慶応元)年5月段階には砲術の稽古も追々熟練し、大隊に編入されたという。これを参考にすると、関東の「軍立夫人」から遅れて徴発された備中一橋領の「夫人」も、警護の補助や砲術稽古などをしていただろう。この夫人

たちが、1865(慶応元)年4～5月に農兵引率の庄屋へ増給要求を伝えた。そして5月に「郡中惣代」9名、つまり備中一橋領の庄屋の代表が江原陣屋へ歎願書を提出した。

資料 恐れながら書付をもって御歎願申し上げ奉り候
【1865(慶応元)年5月15日】



これによると、「御用夫人」150人には領地負担分の他に1か月1歩²朱^{しゆ}ずつ手当金があった。しかし、「上方領知夫人」は「格外手当宜し」いので同様にしてほしいとの要求が出ていた。さらに「右百五十拾人の内にて御選出七拾五人、砲術方仰せ付けられ候内、小隊入りに相成り候分」には1か月1両1歩ずつの「御手当御下げ渡し」が決定した。

これとは別にこの度の歩兵(＝農兵)は、「稽古中御手当金壹(1)か月壹両づつ、小隊入りに相成り候えば壹か月金貳(2)両づつ」の手当てと決まった。このため「夫人の内御繰り上げに相成り候分、歩兵並み御手当金御下げ渡し成し下せられ候」ことが求められた。さらにそのまま「夫人」を務める74人には上方領地並みに1か年23両が渡せるようにして欲しい、半分は備中領が負担するので半分は下げ渡してほしいという内容である。

これをみると、備中国の「御用夫人」の他に「上方領知夫人」がいること、前者150人のうち砲術の稽古を積んだ75人は小隊に入り、手当金が保証されたことがわかる。関東の「軍立夫人」以外にも西国で、おそらく多数の夫人が徴発されており、連隊を編成できる鉄砲の稽古を受けていた。技術の精度は不十分であったようだが、実質的に歩兵であった。

その上で夫人たちは、その立場で小隊に編入されても手当は1両1歩なのに、この度上京した歩兵(＝農兵)が編入されれば手当が2両であることに敏感に反応した。そして、小隊へ編入される夫人75人の歩兵並みの増給と、残った夫人74人の「上方領知夫人」並みの増給を要求した。備中領の庄屋は求め通りの歎願書を速やかに出した。

夫人は訓練を受け実質的に歩兵へ近づいており、その夫人の入隊が促進されると同時に、最初から歩兵として領民が募集されたことから、慶応元年3月に一橋家の鉄砲隊が一気に拡大したことが読み取れる¹⁰⁾。備中領の夫人と庄屋はこの兵力増強方針に乗じて、全員の手当金増給をはか

ろうとしたのである。

5. おわりに

渋沢栄一の来井に関わる資料に連なり、夫人徴発関係の資料も紹介した。備中一橋領からは、数百名の農兵・夫人が上京した。彼らの中には栄一を眺めたり言葉を交わしたりした者も多かったのではないだろうか。領民の多くも出会っているだろう。

井原市内では企業、学校、各種団体、行政が協力してPR活動を進めてきた。市民からも栄一の紙芝居や絵本を制作する活動が盛上がった。その中で特別展は小さなエピソードを積み重ね、人柄を伝えることに努めた。来館者の心に少しでも残れば幸いである。

注

- 1) 日本図書センター、1997年
- 2) 領地は隣接する岡山県の笠岡市・小田郡矢掛町のほか加賀郡吉備中央町にも広がる。
- 3) 栄一は1865年3月から翌年2月にかけて少なくとも4回、備中一橋領を訪れている。
- 4) 専修大学編『阪谷芳郎関係書簡集』芙蓉書房出版、2013年
- 5) 2020年度に、県内他市からも資料を借用した井原市芳井歴史民俗資料館特別展「渋沢栄一と阪谷朗廬・芳郎」、及び埼玉・神奈川両県の公共機関からも資料を借用した井原市文化財センター冬季企画展「資本主義の父・渋沢栄一」を開催した。
- 6) 1912年に生徒数は274人だったが、1923年には621人に増加している。(『井原市史Ⅱ 近現代通史編』2005年)
- 7) 「元治二年 諸御用御触」
- 8) 「備中国村々へ夫人差し出しのこと達書」
- 9) 加藤弘之「幕末期における一橋徳川家の軍事編成 ―夫人・歩兵の登用を中心に―」『国史学』178号、2002年。
- 10) 注9論文によると、1866年8月段階の慶喜の出陣部隊のうち、領民から構成された鉄砲組・砲兵は962人であった。慶喜の将軍就任の際には旧来の家臣とともに幕府陸軍へ編入されている。

身近な教材で学ぶ地理総合「生活文化の多様性と国際理解」の授業実践 —「カップヌードル」の教材化と未来志向のアイデア創造—

1. はじめに

令和4年度より年次進行で始まる新学習指導要領においては、平成28年度12月の中央教育審議会答申の改善すべき事項の最初に書かれた「何ができるようになるか」（育成を目指す資質・能力）を受けて、「生きる力」を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱に整理した。これに合わせて学習評価についても、この3観点から行うこととされたところである。

私たち教科・科目担当者は、授業を受ける生徒の学力をこの3つの観点から評価するわけであるが、私たちが評価するためには、生徒の活動が可視化されなければならない。当然、生徒によって興味・関心が異なるので、何の工夫や仕掛けもなしに授業を行っても、私たちに可視化される生徒の授業への取り組みや成果物が、生徒自身がすでに持っている興味や関心によって左右されてしまうため、特に「学びに向かう力、人間性等」などは公正な評価を行うのは難しいだろう。そこで、地理歴史科に限ったことではないが、私たち教員がまず努力しなければならないのは、できる限り多くの生徒が授業を自分事として取り組めるような教材を開発することなのではないかと考える。つまり、授業から刺激を受けて、生徒自身が主体的に表現したいと思えるような教材開発を行い、その結果として生き生きと「表現」される生徒の「知識及び技能」や「思考力、判断力」、「学びに向かう力、人間性等」を評価できるような環境を構築しなければならないのではないだろうか。

上記の考え方にに基づき、本稿では、生徒が自分事として地理的事象を捉え、主体的に授業課題に取り組める教材として、多くの生徒に身近で、日本の国民食でもある日清食品の「カップヌードル」を教材とした授業実践を報告する。なお、この授業実践は、新学習指導要領の新科目である「地理総合」の大項目「B 国際理解と国際協力」の「(1) 生活文化の多様性と国際理解」を意識して行ったものであり、日本発の「カップヌードル」が海外に進出する際の工夫を通して国際理解を図ろうとするものである。また、「カップヌードル」の海外進出を参考に、今後の日本企業の在り方や社会貢献の方向性といった、未来志向のアイデアを生徒に考察させ、表現させる課題も出した。

2. 地理総合へ向けた授業実践

(1) 本校の特徴

本校は、昭和2（1927年）創立の伝統校であり、平成24

茨城県立日立第一高等学校教諭 川久保 典昭

年度からは日立第一高等学校附属中学校を併設し、併設型中高一貫教育校として、これまでに4期の卒業生を送り出している。

また、1学年は普通科4クラス、サイエンス科2クラスで構成され、科学教育や国際教育にも力を入れている。茨城県では、全ての県立高校の普通教室に65型大型ディスプレイが設置されており、この表示装置を活用して授業を行っている。

(2) 授業の位置づけ～学習指導要領から～

前述の通り、本報告の授業実践は「地理総合」の大項目「B 国際理解と国際協力」の「(1) 生活文化の多様性と国際理解」の教材化を目指したものである。ここでは、身に付ける知識として「世界の人々の特色ある生活文化」が「地理的環境から影響」を受けていることや、「影響を与えたりして多様性」を持つこと、「自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性」が挙げられている。また、身に付ける思考力、判断力、表現力等については「場所の特徴や自然及び社会条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現すること」としている。さらに、内容の取扱いとして事例を設定する際に、「地理的環境には自然環境だけでなく、歴史的背景や人々の産業の営みなどの社会環境も含まれることに留意」することとされている。

後述するように、本報告の授業における日本で生まれた「カップヌードル」が、世界の多様な社会環境に適応するために、原材料や商品名を変化させていることを理解し、日本企業の今後の方向性について考察し、表現することで、学習指導要領に示された知識や力を身に付けることができるものとする。

(3) 授業実践～授業の流れと生徒の活動～

以下のような1時間の授業で完結する展開の授業を行った。図は授業で使用したGoogle スライドの画像である。なお、これらのスライドのデータは、後述する「地理教材共有サイト」から見ることができる。

①導入～「カップヌードル」の発明～

日清食品の創業者である安藤百福が発明した世界初のインスタントラーメン「チキンラーメン」を、欧米諸国に売り込もうとする過程で生まれた「カップヌードル」について図1を用いて説明し、日本とは異なる食生活に対応することで麺をカップに入れる「カップヌードル」が誕生したことを説明した。

「カップヌードル」とは？

・日清食品の創業者 安藤百福が1958年に発売した世界初のインスタントラーメン「チキンラーメン」(袋麺)を世界に広めようとする過程で誕生した商品

・1966年、安藤百福が欧米視察旅行に行った際に、現地スーパー担当者に紹介したところ、担当者は、「チキンラーメン」を小さく割って紙コップに入れ、お湯を注ぎフォークで食べ始めた。

⇒「どんぶりも箸もない食習慣の違いに対応しないといけない」と気づく

・麺をカップに入れてフォークで食べる新製品を開発、発売(1971年)

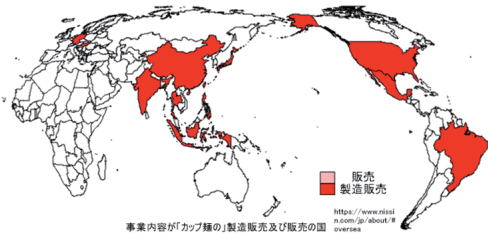


<https://www.nissin.com/jp/about/chronicle/> より

▲図1 スライド1

「どんぶりと箸」のように世界展開に必要な工夫は？

日清食品グループ企業の事業内容がカップ麺の販売又は製造販売の国と地域 (2021.3)



ここで示した国以外にも「カップヌードル」は世界の100カ国以上で販売されている！生産・販売に当たっては、様々な食文化への配慮が行われている（製品の現地化）。

▲図2 スライド2

「日本の「カップヌードル」の原材料

油揚げめん(小麦粉(国内製造)、植物油、食塩、チキンエキス、**ポークエキス**、しょうゆ、**ポーク調味料**、たん白加水分解物、香辛料)、かやく(味付**豚ミンチ**、味付卵、味付えび、**味付豚肉**、ねぎ)、スープ(糖類、粉末しょうゆ、食塩、香辛料、たん白加水分解物、香味調味料、**ポーク調味料**、メンマパウダー)／加工でん粉、調味料(アミノ酸等)、炭酸Ca、カラメル色素、かんすい、増粘多糖類、カロチノイド色素、乳化剤、酸化防止剤(ビタミンE)、香辛料抽出物、くん液、香料、ビタミンB2、ビタミンB1、酸味料、(一部にえび・小麦・卵・乳成分・ごま・大豆・鶏肉・**豚肉**を含む)

<https://www.nissin.com/jp/products/items/9735> より

⇒赤字は宗教や価値観によっては、受け入れられない主な原材料

▲図3 スライド3

続いて、図2を用いて、欧米諸国だけでなく、数多くの国で販売されている「カップヌードル」が、どのような工夫をしてきたのかを考えることを本時のテーマとすることを説明した。

②展開～「カップヌードル」の世界展開の工夫～

図3の日本の「カップヌードル」の原材料を示し、図2と教科書等に掲載されている世界の宗教分布の地図を比較させ、どのような工夫が必要かを考えさせ、発表させた。

この時点での地理の授業では宗教と食生活の関係については扱っていないが、生徒の中にはムスリムは豚を食べることを禁忌としていること、ヒンドゥー教徒は牛を神聖視しているため食べなかったり、ベジタリアンが多かったりすることを知っている者もいるため、発問し、指名して答えさせる中で、宗教への対応が必要であることを学級全体で共有することができた。

そこで、図4の多民族国家でムスリムやヒンドゥー教徒

多様な宗教を信仰する国への対応

シンガポールの「カップヌードル」の材料(いくつかの例)

CHICKEN	SEAFOOD
Wheat flour, palm oil (antioxidants (307b, 304i), tapioca starch, dehydrated chicken meat, dehydrated vegetables (cabbage, carrot, spinach), salt, dehydrated egg, flavour enhancers (621, 635), flavouring powder (chicken, hydrolysed plant protein (soya, corn), celery, modified corn starch), glucose, creamer (glucose, palm fat, sodium caseinate), spices (onion, garlic, pepper, turmeric), chicken extract (chicken, chicken flavouring), soya sauce (soya, wheat), yeast extract, milk, acidity regulators (501, 452, 500, 330, 339, 451, 450, 300), mushroom, stabilisers (412, 1400, 420, 965, 340), colours (160a, 150c), emulsifier (471), anticaking agent (551).	Wheat flour, palm oil (antioxidants (307b, 304i), tapioca starch, creamer (glucose, palm fat, sodium caseinate), dehydrated vegetables (cabbage, carrot, spinach), salt, dehydrated egg, flavour enhancers (621, 635), flavouring powder (chicken, hydrolysed plant protein (soya, corn), celery, modified corn starch), glucose, creamer (glucose, palm fat, sodium caseinate), spices (onion, garlic, pepper, turmeric), chicken extract (chicken, chicken flavouring), soya sauce (soya, wheat), yeast extract, milk, acidity regulators (501, 452, 500, 330, 339, 451, 450, 300), mushroom, stabilisers (412, 1400, 420, 965, 340), colours (160a, 150c), emulsifier (471), anticaking agent (551).

シンガポール日清 https://www.nissinfoods.com.sg/en_ssg/ より

▲図4 スライド4

言語への対応

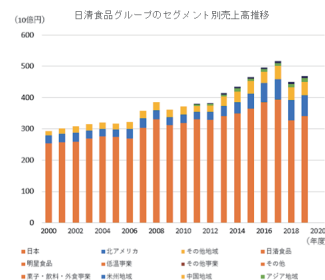
国(地域)	主な言語	商品名
日本	日本語	カップヌードル (Cup Noodle)
アメリカ合衆国	英語	Cup Noodles
メキシコ	スペイン語	Cup Noodles
インド	ヒンディー語、英語	Cup Noodles
ベトナム	ベトナム語	Cup Noodles
ドイツ	ドイツ語	Cup Noodles

日清食品グループ <https://www.nissin.com/jp/about/> より

"s"が付かない(複数形でない)のは日本だけ。日本人は単数と複数の区別をあまりませんが、noodleだと一本の麺を意味してしまいます。

▲図5 スライド5

日清食品グループのセグメント別売上高推移



※左図は、2016年以前と2017年以降でセグメントの分類方法が変わっている。また、2018年度から国際会計基準IFRSを採用した。

日清食品グループ <https://www.nissin.com/jp/library/> より

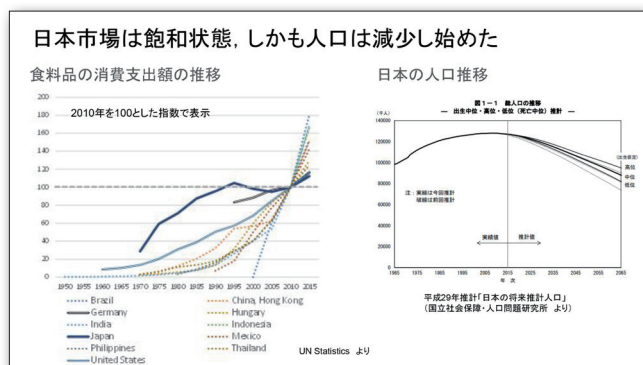
▲図6 スライド6

※各スライドは日清食品ホールディングスホームページより作成。
が居住するシンガポールで販売されている「カップヌードル」の一部の原材料を示し、実際に豚や牛を使わない原材料になっていることを確認した。

また、図5で商品イメージを正確に伝えるための工夫として、日本では「Cup Noodle」として売られている商品が海外では「Cup Noodles」として販売されていることを示し、食生活だけでなく言語に対する工夫も行われていることを説明した。

続いて、日本企業が海外に進出する理由を考えさせた。公的な機関とは異なり、海外での売上高などの細かい資料は公開されていないが、ホームページのIR資料から作成した図6を示し、依然として日本市場が中心だが、欧米やアジアの売上高が徐々に増えていることを説明した。

また、「カップヌードル」を海外に進出させる理由の一つとして、海外マーケットの拡大と日本の人口減少に伴う将来的な日本市場の縮小を示す資料を提示し、企業が売り上げを伸ばすための海外進出もあることを図7で説明した。



例) **企業の社会的責任～災害支援の観点から～**
CSR : Corporate Social Responsibility

非常食としてのインスタントラーメン

2021.2.5 メキシコ日清がグアテマラのハリケーン被災者へ10万食無償提供

2017.12.25 日清ユルドゥズがイラン・イラク地震の被災者へ14万食支援

2011.3.14 日清食品HDが東北地方太平洋沖地震の被災者へ20万食を支援

※上記以外にも世界ラーメン協会（WINA）と共同での食料支援を多数実施。
 迅速で現地の食生活に合った支援を行うため、現地工場から輸送している。

日清食品グループ <https://www.nissin.com/jp/news/> より

▲図8 スライド8

【まとめ】
日本発の食文化「カップヌードル」

①欧米の食習慣に適合する商品開発の過程で生まれた「カップヌードル」

②世界市場に進出するために、地域の食文化に合わせる必要があった
 →特に食のタブーへの対応

③「カップヌードル」は多様な世界の食文化に適応し、マーケットを拡大

④CSRの一環として「カップヌードル」は被災地支援にも活用

⑤「カップヌードル」は逆方向のイノベーションの好事例

▲図9 スライド9

※スライド7は、「UN Statistics」及び「日本の将来推計人口」より作成。
 スライド8は、日清食品ホールディングスホームページより作成。

そして、企業の社会的責任という観点から、日清食品グループが行っている災害支援の事例を図8で説明した。

最後に少子・高齢化の進行や食料の安定供給といった日本を取り巻く様々な課題や、中国やインドなどの新興国の経済成長といった市場の変化の中で日本企業の今後の方向性を考えさせるために、「今後の世界と日本の動向を考えたときに、日本企業に必要な戦略や、影響力を持つ企業としての社会貢献の方向性として、どのようなことが考えられるだろうか?」という問いを発し、生徒に考察を行わせ、その内容を本時の授業の感想とともに Google フォームで授業時間内に提出させた。

③まとめ～イノベーションの視点から～

最後に本時のまとめとして、「カップヌードル」とは日本の商品が海外に進出する際に、現地の宗教や生活等に配慮を行う中で様々な工夫を行い、経済的な効果をもたらした

イノベーション（技術革新）の事例であり、特に日本市場向けの単一の商品であった「カップヌードル」が多様性のある世界に進出する過程で様々な配慮を行い、世界で受け入れられている商品であることを説明した。また、日清食品グループだけでなく、日本の電気メーカーも日本で開発された電気製品を「現地化」することで海外でも広く受け入れられていることを説明した。最後のまとめとして生徒に提示した本時のまとめのスライドが図9である。

(4) 生徒の反応

①今後の日本企業の方向性

以下は一部の生徒のものであるが、生徒から提出された日本企業の方向性のアイデアである。

・【製薬会社】

人口の多さ、人口密度、宗教、食生活、気候などの特性からその地域の流行しやすい病気を特定し、その病原体に適応する医薬品を開発。

・【IT 企業】

世界各地の農家と提携し、作物の管理を AI が行い、徹底的に管理する。発展途上国の急激な人口増加による食糧危機を免れるために効率的な農業政策が必要。

・【IT 企業】

日本独自の文化や考え方から着想を得ることで、日本ならではのサービスを提供できれば、世界でも十分に競争力を持つことができる。

・【グローバル企業】

どの国や地域に行っても、世界が問題視していることに対して、対策を行い、提供しなくてはならない。

・【製造業】

経済成長が盛んな国か、もしくは発展途上国を選び、新興国と共に自社企業が発展または発展途上国を豊かにするきっかけに繋げる。

・【製造業】

日本らしさ（日本製としてのアイデンティティ）と海外の文化への配慮のバランスの見極めが大切。

・【都市デザイン】

SDGs への企業での取り組み方が重要。自分たちの利益のためでも地球規模の問題を考えていかなければならない。

・【食品会社】

寒い地域では食べてるうちに手も温まる器でできたものを開発。

1 時間の授業の中で提出させたため、生徒が実際に考える時間は 10 分程度であったが、地域性を考慮したものや地球的課題の解決に貢献する内容、格差の解消、日本らしさを生かしたアイデアなど、多様な意見が提出され、さらに時間をとって考察をさせてもよいものがたくさんあった。

②授業の感想

Google フォームでは、自由記述で本授業の感想についても生徒に記入させた。

本時の授業のねらいである国際理解に関連した内容は以下の通りである。

- ・自分が良いと思う物を伝える時には相手の状況、文化を考慮することが第1歩なのだと感じました。
- ・グローバル化が進む現在、自国だけでなくお互いの国の現状、環境、国民性、文化などを尊重しながら発展を考えていくことが重要なのだとわかりました。
- ・「カップヌードル」は他国の人の口にあうのかと考えたことがあるが、宗教に配慮した食品の製造を行っていることに優しさを強く感じた。
- ・多文化社会になってきてる今、みんなが自分の国のことだけではなく、ハラルマークのように他の国のことも考えられる人が増えて誰がどこに住んでも住みやすい社会にもっとなっていけばいいと思った。
- ・売りたいものを現地の文化に合わせることが大切なことだとわかった。
- ・海外では宗教に合わせて配慮するのは大切だということを改めて実感できた。

これらの感想から、お互いの文化の背景を理解することの大切さや、自分の価値観や習慣を押しつけるのではなく、相手に合わせることの大切さを感じた生徒がおり、授業のねらいである「生活文化の多様性や国際理解」を一定程度達成できたと考える。

また、授業のねらいとは別に、私自身が意外に感じた生徒の感想は以下である。

- ・海外進出するために材料を変えていることを初めて知って驚いた。
- ・海外へ商品を展開する際、宗教を考慮して原材料を選ぶということに驚いた。
- ・日清の「カップヌードル」がアメリカで売られていたことは知っていたが、世界中に展開していることは知らなかった。
- ・日清食品のカップ麺が世界に普及していることに驚いた。

私自身は、神奈川県横浜市のみなとみらい21にあるカップヌードルミュージアムやテレビ番組で「カップヌードル」の世界展開や安藤百福の「カップヌードル」の開発過程を見たことがあったので、ある程度は生徒たちも知っていると思ったが、そうではない生徒も多数いることがわかった。教材に対する意外性というのは、教材に対して生徒が向き合う際に自分事として捉えるきっかけとなるものであり、「カップヌードル」の教材化の効果の一側面であると感じた。

次は授業の効果に関する生徒の感想である。

- ・地理的な要因が商品開発や販売に関わっているということに驚いた。
- ・ぜひ他の産業の例も知りたいと思いました。
- ・地理はさまざまな分野と密接につながっていること

が分かった。世の中のことを知るには、地理の知識が不可欠であると実感した。

- ・身近なところにも地理があることがわかった。

こういった感想を読むと、地理学習そのものの意味や有用性、そしてさらに学習を深めたいという意欲が湧いた生徒もいたことがわかり、身近な教材を使うことで、普段の地理の学習への興味や関心を高める効果があったのではないかと考える。

(5)「地理教材共有サイト」の紹介

今回、私がこのような教材をつくるきっかけとなったのは、Facebook のプライベートグループで全国の地理教員が参加する「ICT でシェアする地理教材研究会」(管理者: 新井貴之氏, モデレーター: 柴田祥彦氏, 令和2年4月12日作成, 令和3年10月8日現在で200人のメンバー)に令和2年11月から参加したことであり、私が参加したときにはすでに「身近なものを入り口にして世界を知る」をコンセプトに、全国の地理教員から様々な教材におけるアイデアが出され、具体化されていた。教材作成の方向性としては、「生徒だけでなく、地理専門外の教員に対しても見本になるようなもの」「閲覧者が取捨選択して授業を実践できるもの」「カップ麺を切り口にして地理の世界に入っていく」というものが示されていた。本稿で報告した「カップヌードル」の教材化も含めて、すぐに授業で使える Google スライドの教材については、最後の引用文献に掲載した「地理教材共有サイト」に公開されているので参照されたい。

現在「地理教材共有サイト」には、地理総合の教材集を集めたページも作成されており、徐々に整備されている。これらの教材は基本的にクリエイティブ・コモンズ表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されているので、クレジット表示をすれば、ダウンロードして授業者が改編して使用することも自由である。



▲地理教材共有サイトのトップページ

3. おわりに

本稿では、「カップヌードル」という生徒にとって身近であると考えられる教材を用いて、生徒が主体的に取り組み、様々な資料を通して思考・判断を行って、アイデアを表現させることを目指す授業実践を報告した。授業を通した生徒の作業結果からは、学習指導要領解説の「内容の取扱い」

に示されている「生活文化の多様性と国際理解」の指導項目である「世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解すること」を一定程度達成できるとともに、「カップヌードル」という身近な商品でありながら、生徒が知らない知識もあり、その意外性から興味や関心を持って教材に向き合うことができたと感じた。

地理歴史科という教科の特性上、教える側の興味や関心が教材作成や授業の組み立て方に大きな影響を与えることはもちろんのこと、授業を受ける生徒にも海外旅行経験や通塾の有無、家庭にある書籍などによって、授業に向き合う際の土台が違って来る。そういった多様な生徒が存在する空間で、共通の話題を用いて授業を行うためには、誰もが知っている教材を用いるのが妥当であろう。特に「地理総合」は令和4年度以降の全ての高校が学ぶ必修科目であり、標準履修が2単位という年間70回できるかできないかの科目となるので、少ない時間数の中で効果的に知識・技能を身につけ、さらに課題解決のための議論の時間や地域調査を行うとすると、なおさら可能な限り共通の土台の上に立った授業を構成する必要があるだろう。

そして、私自身が現在経験していることであるが、教員

間のネットワークは時間や距離に関わらず行う事ができるような環境が整いつつあり、求めれば様々な情報やアドバイスをもらうことができるようになってきている。「ICTでシェアする地理教材研究会」のように毎月5日、15日、25日に定例のオンラインミーティングを行い、距離を越えて全国の地理教員が情報交換をする場があったり、FacebookやSlackといったSNSを使うことで、好きな時間と場所で地理教員どうしがコミュニケーションを行い、教材のアイデアやブラッシュアップを図ったりすることもできる。

コロナ禍で急速に普及したオンラインを活用した情報交換の場であるが、オンラインのメリットを生かし、生徒が将来にわたって使うことができる地理的な見方・考え方の育成方法に磨きをかけるとともに、学校においては対面のよさを生かした、教員の教材に対する思いや質感が伝わる場で授業を行い、生徒どうしが発表したり、意見交換をする中で切磋琢磨できる環境を地理の授業で構築できるようにしていきたい。

最後に、本授業の教材研究を行うにあたっては、聞き取りや資料提供で日清食品ホールディングス株式会社広報部にご協力を賜りました。ここに感謝申し上げます。

参考文献

- ・「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」（文部科学省，2019年）
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm
- ・「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説地理歴史編」（文部科学省，2019年）
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1407074.htm
- ・「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（中央教育審議会，2017年）
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1380731.htm

参考ウェブサイト

- ・ICTでシェアする地理教材研究会（Facebook プライベートグループ）
◇ <https://www.facebook.com/groups/2609694289292127/about>
- ・「カップヌードル」に関する資料（日清食品グループホームページ）
◇ <https://www.nissin.com>
- ・シンガポールの「カップヌードル」に関する資料（シンガポール日清ホームページ）
◇ https://www.nissinfoods.com.sg/en_sg/
- ・地理教材共有サイト◇ <https://sites.google.com/view/geoclass2020/>

地歴最新資料 第28号



みつめたい教育と未来

第一学習社

2021年11月1日発行

東京：〒102-0084 東京都千代田区二番町5番5号
大阪：〒564-0052 吹田市広芝町8番24号
広島：〒733-8521 広島市西区横川新町7番14号

☎ 03-5276-2700
☎ 06-6380-1391
☎ 082-234-6800

札幌：☎ 011-811-1848 青森：☎ 017-742-4600 仙台：☎ 022-271-5313
新潟：☎ 025-290-6077 つくば：☎ 029-853-1080 東京：☎ 03-5803-2131
横浜：☎ 045-953-6191 金沢：☎ 076-291-5775 名古屋：☎ 052-769-1339
神戸：☎ 078-937-0255 広島：☎ 082-222-8565 福岡：☎ 092-771-1651
鹿児島：☎ 099-227-7801 沖縄：☎ 098-896-0085